

令和3年5月28日

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

熊本県熊本市中央区水前寺6-18-1
熊本県教育委員会
教育長 古閑 陽一

1 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

| | |
|-------|--------|
| ふりがな | くまもとけん |
| 管理機関名 | 熊本県 |
| 代表者職名 | 知事 |
| 代表者職名 | 蒲島 郁夫 |

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

| | |
|-------|---------------------------------------|
| ふりがな | いっばんしゃだんほうじんくまもとけんじょうほうさーびすさんぎょうきょうかい |
| 管理機関名 | 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会 |
| 代表者職名 | 会長 |
| 代表者氏名 | 足立 國功 |

③管理機関（学校設置者）

| | |
|-------|------------------|
| ふりがな | くまもとけんきょういくいいんかい |
| 管理機関名 | 熊本県教育委員会 |
| 代表者職名 | 教育長 |
| 代表者職名 | 古閑 陽一 |

2 指定校名

学校名 熊本県立八代工業高等学校
学校長名 村木 祐二

3 事業名

優れた人材や技術の「^{クロス}X（融合）」を追究し、DX時代の夢をつなぐ創造的エンジニアの育成～くまもとはじまる産業人材育成エコシステム～

4 事業概要

本県教育委員会では、八代工業高等学校を指定校とし、情報教育の充実により人材の育成を目的とした協力協定を結ぶ（一社）熊本県情報サービス産業協会、熊本県で本事業に取り組む。

本県産業界では、デジタル人材及び「コトづくり」にも貢献できる人材の育成が求められている中、工業高校では、DX等への対応としてデジタル技術力の育成、新たな価値を創出する発想力等の育成、県産業界等と連携・一体化した実践的な教育活動の充実等が課題となっている。また、本県産業界は専門高校生に「技術革新への対応力」、「課題解決力」、「発想力」等の資質・能力を求めており、これらの育成が必要とされている。

そこで、指定校において本事業を実施することにより、加速度的に県全体の産業・教育界の課題解決につなげていくものとする。具体的な事業内容としては、「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づくマイスター・ハイスクールCEOのマネジメントにより、産業実務家教員による最先端デジタル技術を取り入れた授業、地域未来牽引企業など地域を代表する産業現場のスペシャリストとともに取り組む企業実習を全学科対象に実施する。また、DX社会を見据え、工業の各分野を横断的な視点で捉える力を育成し、デジタル対応産業教育設備の活用を含め、最先端のデジタル技術を基礎から応用へと深化させる。

さらに、企業等と連携・協働した実習や課題研究等における生徒の主体的な課題解決への取組を通し、新たな価値を創出する「コトづくり」に必要な素地を涵養し、県産業界に創造的に貢献するエンジニアの育成に向けたカリキュラムの検討・刷新を行うなど本事業の実施を通して、「熊本県産業成長ビジョン」の実現を目指す産業人材育成エコシステムを構築する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- ア 学校設定教科・科目を開設している
- イ 教育課程の特例の活用している

6 事業の実施期間

契約日～令和4年3月31日

7 令和3年度の実施計画

(1) マイスター・ハイスクール運営委員会

年2回（7月、1月）、意思決定機関である「マイスター・ハイスクール運営委員会」の会議を開催し、本県産業成長ビジョンを実現する「マイスター・ハイスクールビジョン」を策定し、進捗状況等を確認するとともに、検証・改善等の助言を行う。また、「マイスター・ハイスクールCEO」及び「産業実務家教員」の役割とその効果、学校現場への産業人材登用も併せて、検証する。具体的には以下のとおりである。

ア 第1回運営委員会（7月初旬）

(ア) 「マイスター・ハイスクールビジョン」の検討・策定

(イ) 「マイスター・ハイスクールCEO」及び「産業実務家教員」の選任及びその役割や具体的な業務内容（授業計画等）等の確認

(ウ) 事業の達成目標（評価アンケート）の設定 等

イ 第2回運営委員会（1月中旬）

- （ア）達成目標（評価アンケート）から今年度の実施状況の評価・検証及び指導・助言
- （イ）マイスター・ハイスクールによるCEOのマネジメントによる産業実務家教員の授業の取組の成果を評価・検証
- （ウ）企業実習、企業視察・産業講話、高大連携等の取組と成果を評価・検証
- （エ）進路・資格等の取得状況、県内企業就職率、工業系高等教育機関等への進学率等の実績を評価・検証
- （オ）本年度の総括及び次年度実施計画等の確認及び指導・助言
- （カ）産業界からの外部人材を学校現場に登用することの評価・検証 等

（2）マイスター・ハイスクール事業推進委員会

年4回（7月、10月、12月、2月）、事業推進機関である「マイスター・ハイスクール事業推進委員会」の会議を開催し、産業実務家教員による担当授業や企業実習等の実施状況を通して、産業界の動向を踏まえた教育課程のあり方・方向性を検討、決定するとともに、校内組織「マイスター・ハイスクール校内委員会」へ指導・改善等の助言を行う。

マイスター・ハイスクール事業推進委員会は、委員長であるCEOが中心となり、事業推進のために必要な企業や関係機関との連携を深め、人材育成に向けた協力体制を整えとともに、校内においては、産業実務家教員の専門性に応じた効果的な授業等の実施に向けて支援する。

ア 第1回事業推進委員会（7月中旬）

- （ア）「マイスター・ハイスクールビジョン」の具現化に向けた取組の確認
- （イ）産業実務家教員による授業計画・指導内容の検討
- （ウ）産業講話の実施計画の確認（該当科目、該当学科・クラス等）及び外部講師の妥当性の検証
- （エ）企業視察・企業実習先の実施計画の確認（該当科目、該当学科・クラス等）及び受入先の選定
- （オ）高大連携、高大接続の検討
- （カ）今後の教育課程の在り方検討に向けた現教育課程の確認 等

イ 第2回マイスター・ハイスクール事業推進委員会（10月中旬）

- （ア）第1回評価アンケート結果の考察
- （イ）産業実務家教員による授業の進捗状況の確認・検証
- （ウ）産業講話・企業視察等の進捗状況の確認・検証
- （エ）企業実習の進捗状況の確認・検証
- （オ）高大連携・高大接続の検討
- （カ）今後の教育課程の在り方検討に向けた現教育課程の確認 等

ウ 第3回事業推進委員会（12月中旬）

- （ア）第2回評価アンケート結果の考察
- （イ）産業実務家教員による授業の進捗状況の確認・検証
- （ウ）産業講話・企業視察等の実施状況の評価
- （エ）企業実習の実施状況の評価
- （オ）高大連携・高大接続の検討
- （カ）教育課程の刷新の方向性について検討

- (キ) 研究成果発表会実施に向けた内容検討 等
- エ 第4回事業推進委員会（2月上旬）
 - (ア) 第2回運営委員会における事業評価・検証等の確認
 - (イ) 評価アンケートをもとに、今年度の取組の成果と課題把握及び改善策の検討
 - (ウ) 次年度の実施計画等の改善・決定
 - (エ) 教育課程の刷新の方向性について検討 等

(3) マイスター・ハイスクール校内運営委員会

隔週木曜日の6限目に、校内の意思決定機関である「マイスター・ハイスクール校内運営委員会」を開催し、「マイスター・ハイスクールビジョン」を具現化する取組の進捗状況や課題・成果等を把握・確認し、検証を行う。

マイスター・ハイスクールCEOを統括者とし、教頭、産業実務家教員が統括者の補佐役及び委員会の企画・運営、事務長が経理関係を担う。

取組の中心となる事業主査には情報技術科主任、教育課程の検討を担う教務主任及びキャリア教育や進路指導の中心となる進路指導主事を副主査とし、事業実務代表として全学科（5学科）の主任を加えた組織体制を整える。

ア 5月から9月

- (ア) 産業実務家教員による授業計画及び授業内容の検討・決定
- (イ) 教材・教具の検討及び開発
- (ウ) 評価アンケートの作成
- (エ) 第1回評価アンケートの実施（9月初旬）及び分析
- (オ) 産業講話・企業視察、企業実習等の具体的な取組（レポート作成、評価表作成等）
- (カ) 高大連携・高大接続の情報収集 等

イ 9月から12月

- (ア) 産業実務家教員の授業の進捗状況の確認及び課題の把握
- (イ) 産業講話・企業視察、企業実習等の各取組の評価アンケート実施
- (ウ) 研究成果中間発表会の企画・準備
- (エ) 第2回評価アンケートの実施（11月中旬～下旬）及び分析
- (オ) 産業講話・企業視察、企業実習等の具体的な取組（レポート作成、評価表作成等）
- (カ) 高大連携・高大接続の情報収集 等

ウ 1月から3月

- (ア) 本年度の事業の振り返り及び成果と課題のまとめ
- (イ) 第3回評価アンケートの実施（3月初旬）及び分析
- (ウ) 企業視察等の具体的な取組（レポート作成、評価作成等）
- (エ) 次年度の実施計画案の検討

(4) マイスター・ハイスクールCEOの役割及び具体的な業務内容

マイスター・ハイスクールCEOは、本事業の統括者として、（一社）熊本県情報サービス産業協会等への産業実務家教員の派遣依頼、企業視察、企業実習等における受入先の調整・渉外、産業実務家教員の専門性に応じた効果的な授業実施に向けての支援を行うことで「マイスター・ハイスクールビジョン」の具現化に取り組む。具体的な業務内容は以下のとおりである。

ア 「マイスター・ハイスクールビジョン」の実現に向け、校内の事業主査や事業実務を

担う学科主任等との連携及び授業・実習をはじめキャリア教育の視点からも教育活動の詳細を把握

- イ 産業実務家教員の授業実践の管理、連携先企業及び大学等高等教育機関等の選定・渉外
- ウ 事業進捗の評価・検証により産学官一体となった産業人材育成をマネジメント
- エ 校内組織「マイスター・ハイスクール校内運営委員会」を統括、教務部及び進路指導部等を管理
- オ 今後の工業教育のあり方を検証し、DX時代が必要とする教育活動の実施に向け教職員のマインドチェンジを促進
- カ 学科改編等を含めた教育課程刷新の検討など産業人材育成のエコシステムの構築を陣頭指揮 等

(5) 産業実務家教員による授業計画

本年度は、産業実務家教員5人による授業を全学年・全学科対象に、4科目（「情報技術基礎」、「工業技術基礎」、「実習」、「課題研究」）において総計481時間の授業を計画している。具体的な授業内容を以下に示す。

ア 1学年

1年生は「最新のデジタル技術に触れる」をテーマに、全学科を対象に科目「情報技術基礎」及び「工業技術基礎」において産業実務家教員による授業を実施する。デジタル技術の基礎・基本を学ぶとともにデジタル機器活用によるコミュニケーション能力の向上を図る。

授業実施時間は、科目「情報技術基礎」を5学科7クラス×9時間の計63時間、科目「工業技術基礎」を5学科7クラス×12時間の計84時間であり、毎週水曜日を本校独自の「工業の日」と設定して産業実務家教員による授業を実施する。

(ア) 科目「情報技術基礎」

科目「情報技術基礎」では、9月22日（水）から授業を開始し、単元「産業社会と情報社会」、「コンピュータネットワーク」、「情報技術の活用」を中心に計9時間の座学と実技を組み合わせた指導を行うとともに単元の要点を押さえながら、実際の産業現場を反映した内容とする。

実社会に即した情報技術の実際を指導することにより産業界で活用できる情報リテラシーの基礎を身に付けさせ、さらに、コンピュータネットワーク、情報技術を活用したコミュニケーションについて学ぶことで最新のデジタル技術に興味関心を持ち、2～3年次の科目「実習」及び「課題研究」、企業実習につながる基礎的な知識を身に付けさせる。

(イ) 科目「工業技術基礎」

科目「工業技術基礎」では、全学科の生徒が学科を横断する実習を実施する。産業実務家教員の指導は9月8日（水）から開始し、各クラスにおいてIoT、ネットワークを3時間、AR・VRについて3時間の実習を行うことで、最新のデジタル技術に対する興味・関心を高める。

IOT、ネットワークについては、機材を有線・無線を用いての接続および設定方法や認証方法を学ぶとともに、AR・VRについては、スマートグラスを用いることで最新のデジタル技術に興味・関心を持たせるとともに、デジタル機器を活用したコミュニケーションを体験させることで「DX」をツールとして活用する基礎を身に付

けさせる。

学科横断による学びを通して、工業の各分野を広く体験することにより、「コトづくり」につながる「ものごとを幅広く柔軟に捉える視点」を育成することで、課題発見・解決につながる能力を涵養し、最終的な目標である新たな価値を創出する発想力の基礎を涵養する。

イ 2学年

2年生は「課題解決へ向けて」をテーマに、全学科を対象に科目「実習」において産業実務家教員による授業を9月6日（月）から開始し、工業各分野におけるデジタル機器の活用に関する理解を深め、課題に対して主体的な行動力と協働力で問題を解決へ導く力を育成する。

授業実施時間は、インテリア科7時間、機械科48時間（24時間×2クラス）、工業化学科6時間、電気科18時間（9時間×2クラス）、情報技術科30時間の計109時間の産業実務家教員による授業を実施する。

全学科共通でI o T、ネットワークの実習を3時間実施することで、特に、スマートグラスをはじめとするデジタル機器を活用したコミュニケーションを体験し、「DX」をツールとして活用する基礎を育成するとともに、各科の専門性及び産業界の現実に即したデジタル技術について学ぶ。

授業実施を通して、3年次の科目「実習」及び「課題研究」を見据え、自ら主体的に行動し、協働しながら課題発見・解決につながる能力を涵養し、最終的な目標である新たな価値を創出する発想力の基礎を育成する。

(ア) インテリア科

B I M（4時間）の基本や仕組みを学ぶことで、C A Dとの違いや最新の建築設計・管理に触れる。

(イ) 機械科

9時間相当をR P Aのフリーソフトウェア（U i p a t h）を用い、ソフトウェアのインストールやそれを用いた実習に取り組み、ソフトウェアによる自動化が進んでいることを体感させる。

また、15時間相当を自動運転の教材（D o n k e y C a r）を用いてP y t h o n、A I、画像処理の最新技法を学ばせながら、自動運転車の開発を体験させる。

(ウ) 工業化学科

サンプルデータをもとに統計の意味を理解させ、実際に実習で測定したデータを用いて統計処理の体験させることで、データサイエンスを学ぶ素養を育成する。

(エ) 電気科

光ケーブルの接続などの通信技術のハード面、ソフト面の学習を行う。生徒各自が設計したデザインやアイデアを3Dプリンタで実現することで、最新のデジタル技術を体験させる。

(オ) 情報科学科

授業前半（15時間相当）にスマートグラスを用いたAR、VR、MRの実習を通して、幅広いデジタル技術機器の活用と最新の技術を習得させる。また、後半（15時間相当）では、自動運転の教材（D o n k e y C a r）を用いてA I、画像処理の最新技法を学ばせながら、自動運転車の開発を体験させる。

ウ 3学年

3年生は「創造的思考力の育成」をテーマに、全学科を対象に科目「実習」及び「課題研究」において産業実務家教員による授業を実施し、デジタル機器の応用を学ぶ。特に、科目「課題研究」では地元企業と連携した課題解決型学習を通し、「コトづくり」につながる創造的な発想力・デザイン力を育成する。

(ア) 科目「実習」

科目「実習」では、9月24日（金）から授業を開始し、インテリア科3時間、機械科計24時間（12時間×2クラス）、工業化学科3時間、電気科24時間（12時間×2クラス）、情報技術科24時間の計78時間の産業実務家教員による授業を実施する。

2年生の科目「実習」と同様に、全学科共通で3時間IoT、OS、ネットワークの実習を実施することで、将来、技術者としてコンピュータを使うリテラシーを培う。また、各科の実習内容は、2年生の「実習」と同じテーマで実施するが、前年度までの学習内容を鑑み、更に内容を発展させた指導を行う。

(イ) 科目「課題研究」

科目「課題研究」では、計147時間（5学科7クラス×21時間）の産業実務家教員による授業を実施する。産業実務家教員が全てのクラスにアドバイザーとして入り指導助言を行いながら、次年度以降の地元企業等と連携した課題解決型学習の実施を目指す。さらに、最終目標の一つである「コトづくり」につながる創造的な発想力・デザイン力の基礎を育成する。

(6) 企業実習

今年度の2年生「企業実習」については、11月16日（火）～19日（金）までの4日間のべ32時間実施する。

（一社）熊本県情報サービス産業協会の会員企業をはじめ、（一社）熊本県工業連合会、地域未来牽引企業、県認定リーディング企業等から各科の専門性に合わせた企業等を選定する。

本県産業界の実際をはじめ、先進的な産業技術・現場のDXを学ぶことにより、デジタル機器活用に関する専門的な知識・技術を高める。また、事前指導の中で生徒各自にテーマを持たせ、主体的に課題に取り組み、解決へ導く力を育成する。

次年度以降は、企業実習を8月と11月にのべ64時間実施し、2年生の全ての生徒が情報・製造関連企業での企業実習を行う予定である。

(7) 産業講話・企業視察、高大連携・高大接続の実施

ア 産業講話

本事業の取組開始時期である7月に「産業界が求める人材とは」をテーマに、全校生徒を対象に学年毎に本事業の目的や「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づく育成したい人材像について講話を実施し、本事業の意義や具体的な取組内容を生徒も共有し、今後の学習意欲を喚起する。

10月及び12月に全校生徒を対象に、先端的な企業から講師を招聘して産業講話を実施することで、間断なく変化する産業界の実際を知り、産業全般に対する興味・関心を高め、最先端技術や実社会への興味を深め、課題の発見・解決や技術革新を追求する主体的・協働的な姿勢を育成する。加えて、工業化学科では、2年生を対象に10月及び12月に県内から講師を招聘して、データサイエンスに関する講義及びワークショップの産

業講話を実施する。

イ 企業視察

産業全般に対する興味・関心を高め、最先端技術や実社会への興味を深め、課題の発見・解決や技術革新を追求する主体的・協働的な姿勢を育成する事を目的に、1年生の1月に全学科を対象に企業視察を実施し、2年次に向けた学習意欲を高めるとともに、企業実習への理解と準備につなげる。

ウ 高大連携・高大接続

工業の専門分野をより深く学ぶために上級学校へ進学を希望する生徒を対象に、高大連携（先行履修等）のあり方、具体的な内容の検討を対象大学と進め、次年度以降の試行につなげる。

(8) 評価アンケートの実施

本事業に係る評価アンケートを年に3回（事業開始時：9月初旬、中間検証：11月中旬～下旬、年度末：3月上旬）に実施し、生徒及び教員等の変容を客観的に把握し、産業実務家教員による指導の効果等を評価・検証し、本事業遂行の課題把握につなげる。

ア 定量的評価（数値や数量で表すことができる指標及び目標の評価）

(ア) 生徒が身に付けた資質・能力の見える化を図り、生徒・教員等の意識の変容を把握するため以下の観点で評価アンケートを作成し、主たる取組ごとに実施する。評価アンケートは4段階【大いに、ある程度、あまり、全く】で評価を行い、【ある程度】以上が80%以上を目標とする。

<生徒評価アンケートの項目>

- デジタル技術に関する知識・技術の習得
- デジタル技術の活用力
- 主体的に取り組む意欲
- 課題解決能力
- 県産業・県内企業への理解 等

<教員等評価アンケートの項目>

- 生徒の変化：最先端技術に関する興味・関心、知識・技術の向上
- 教員の変化：デジタル技術や生徒への指導力等の向上
- 学校全体の変化：学校全体の教育活動の充実、魅力ある工業高校の実現、県内企業との一体化した取組みの活性化
- 全体的評価：産業人材育成エコシステムの構築

(イ) 実績評価

<進路・資格取得等の目標値（前年度の数字）>

- 県内企業への就職割合：60%（51.7%）
- 工業系大学等高等教育機関への進学割合：60%（46.0%）
- デジタル技術関連の資格取得割合：100%（53.0%）
- ビジネスコンテスト等の参加：5回/年（0回）

<活動等>

- 県内企業等の施設・設備等を活用した実習の機会：生徒1人2回以上/年
- 産業実務家教員の活用（講話、課題提供等10回以上/年）

イ 定性的評価（数値化できない指標及び目標の評価）

(ア) 本事業をはじめ教育活動全体で身に付いたと考えられる資質・能力について、生徒による自己評価と教員等による客観的評価【SABCの4段階のルーブリック評価】を学年末に実施し、3年次において90%以上の生徒がB以上の状態になることを目指す。

<評価の項目：評価規準>

○課題発見・解決力：

現状を把握し目標に対する課題を見つけることができる。
課題解決に向けた行動がとれる。

○論理的思考力・判断力：

学んできた知識・技術を整理して、提示された事柄を論理的に考えることができる。

○考察力・分析力：

課題解決に必要な事柄について調査でき、調査結果を考察することができる。

○発想力・創造力：

他者の異なる意見を受け入れ、自分自身の意見やアイデアと比較しながら、作品やデザインの発想・創造ができる。ニーズに沿った企画提案をしようとしている。

○コミュニケーション能力：

相手の話に共感しながら相手の話を聞くことができる。状況に応じた自分の意見が述べられている。

○コラボレーション力（協調性・チーム力）：

チームで作業・行動をするとき、互いの意思を尊重した行動をとることができる。

○プレゼンテーション力：

指示された方法を用いて、わかりやすく説明できる。自分の意見を効果的に伝える話し方の工夫ができる。

○企画・マネジメント力：

目標を達成するために計画的に取り組み、状況に応じて他者の協力も得ながら計画を修正し、企画を遂行できる。

○本県産業界への貢献意識：

県産業について理解し、持続可能な発展に何ができるかを考えている。

○最先端技術を追究しようとする姿勢：

絶えず進化する産業技術に興味・関心を持ち、新しい技術を知りたいと思っている。

○工業の各分野を横断的に捉える力：

産業技術のつながりを意識して学ぼうとしている。

<評価の場面>

産業実務家教員による授業、企業実習、産業講話、企業視察、課題研究、ビジネスコンテスト等への取組、成果発表会等学習場面にあわせた観点で評価

(イ) 教員の指導力向上に係る自己評価、産業界等による客観的評価を実施

「本県専門高校生に求める資質・能力に関するアンケート調査（H30.4本県産業教育審議会実施）」結果より、県産業界等が課題と捉えている資質・能力「主体的行動力」、「課題解決能力」、「技術革新への対応力」、「発想力」等を育成する

ために指導方法の工夫・改善状況及び意識の変容を評価する。

(9) 研究成果中間発表会

第2回運営委員会の開催にあわせて1月に研究成果中間発表会を実施する。「マイスター・ハイスクールビジョン」の具現化を目指し、指定校1年目の取組及びその成果と課題を関係者及び生徒によるステージ発表やポスターセッションを実施する。

発表内容は「産業実務家教員の授業による各種最先端デジタル技術の習得」「企業実習」「企業視察・産業講話」等の取組、成果、課題の報告を行う予定である。

生徒は発表に向けた企画・運営・準備を通して、「マイスター・ハイスクールビジョン」の目指す「課題の発見・解決や技術革新を追求する人材育成」「コトづくり」につながる創造的思考力の育成」「熊本の創造的復興を支える産業人材の育成」につながる能力を涵養させ、1年目の成果のまとめを確実なものとする。

県内外の工業関係高校、県産業界・経済団体・大学、研究機関など各分野が一堂に集まり意見を交換することで、次年度以降の研究の課題を見いだす機会とする。

さらに、産学官が一体となって県産業界を担う高校生の人材育成を推進する気運を高め、産業人材エコシステム構築の推進を図る。

<添付資料>

- 1 令和3年度教育課程表
- 2 産業実務家教員授業計画表
- 3 事業組織体制

8 事業実施体制

(1) 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

| 氏名 | 所属・職 |
|-------|-------------------------|
| 村木 祐二 | 熊本県立八代工業高等学校・校長 |
| 古閑 陽一 | 熊本県教育委員会・教育長 |
| 藤井 一恵 | 熊本県商工労働部・部長 |
| 足立 國功 | 一般社団法人 熊本県情報サービス産業協会・会長 |
| 笠原 慶久 | 株式会社肥後銀行・頭取 |
| 村山 伸樹 | 熊本県・産業政策顧問 |
| 田中 稔彦 | 一般社団法人熊本県工業連合会・会長 |
| 宇佐川 毅 | 熊本大学・副学長、理事 |
| 高崎 文子 | 熊本大学教育学部・准教授 |
| 若杉 浩一 | 武蔵野美術大学造形構想学部・教授 |

(2) 事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

| 氏名 | 所属・職 |
|-------|----------------------------------|
| 富松 篤典 | 株式会社電盛社・常務取締役 マイスター・ハイスクールCEO |
| 村木 祐二 | 熊本県立八代工業高等学校長・校長 |
| 重岡 忠希 | 熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課・課長 |
| 伊藤 孝夫 | 一般社団法人 熊本県情報サービス産業協会・事務局長 |

| | |
|---------|--|
| 富永 好三 | 一般社団法人 熊本県工業連合会・事務局長 |
| 大下 慶 | 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課・課長 |
| 田邊 元 | 株式会社肥後銀行地域振興部・部長 |
| 田原 実 | 一般社団法人八代圏域雇用促進センター・事務局長 |
| 連川 貞弘 | 熊本大学工学部・学部長 |
| 坂井 栄治 | 崇城大学情報学部・学部長 |
| 荒木 啓二郎 | 熊本高等専門学校・校長 |
| 尾原 祐三 | 熊本県立技術短期大学校・校長 |
| 高橋 将幸 | 株式会社構造計画研究所デザイン工学部BIMデザイン室・室長 産業実務家教員 |
| 板井 清記 | 西部電設株式会社・取締役営業部長、産業実務家教員 |
| 佐々木 淳一郎 | 株式会社肥銀コンピュータサービス・執行役員経営企画部長 産業実務家教員 |
| 村内 卓也 | 株式会社K I S ITソリューション事業部流通第一ソリューション部・参与 産業実務家教員 |
| 川北 英晴 | 株式会社熊本計算センターシニアスタッフグループ、産業実務家教員 |
| 山下 辰徳 | 熊本県立八代工業高等学校・情報技術科主任（研究主査） |

(3) 指定校での体制（マイスター・ハイスクール校内運営委員会）

| 氏名 | 職 | 役割 |
|-------|-----------------|-------|
| 村木 祐二 | 校長 | 統括 |
| 富松 篤典 | マイスター・ハイスクールCEO | 統括 |
| 上村 一夫 | 教頭 | 統括補佐 |
| 牛迫 大樹 | 主幹教諭 | 統括補佐 |
| 山下 辰徳 | 情報技術科主任 | 研究主査 |
| 中田 隆輔 | 進路指導主事 | 研究副査 |
| 濱田 崇裕 | 教務主任 | 研究副査 |
| 一ノ口武俊 | インテリア科主任 | 各研究総括 |
| 藤井 圭祐 | 機械科主任 | 各研究総括 |
| 豊永 大宗 | 工業化学科主任 | 各研究総括 |
| 山本 政夫 | 電気科主任 | 各研究総括 |

9 課題項目別実施期間

| 業務項目 | | 実施時期 令和3年5月18日～令和4年3月31日 | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--------|--------------------------|----|----|------------|----|----|------------|-----|------------|------------|----|----|
| | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| マイスター・ハイスクール事業運営委員会 | | | | | 実施 | | | | | | 実施 | | |
| マイスター・ハイスクール事業推進委員会 | | | | | 実施 | | | 実施 | | 実施 | | 実施 | |
| マイスター・ハイスクール事業校内委員会 | | | | | 実施 | | | | | | | | |
| 1年生 全科共通 | 情報技術基礎 | | 準備 | | | | 実施 | | | | | | |
| | 工業技術基礎 | | 準備 | | | | 実施 | | | | | | |
| 2年生 実習 | インテリア科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 機械科 | | 準備 | | | | | 実施 | | | | | |
| | 工業化学科 | | 準備 | | | | | | | 実施 | | | |
| | 電気科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 情報技術科 | | 準備 | | | | 実施 | | | | | | |
| 3年生 実習 | インテリア科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 機械科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 工業化学科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 電気科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 情報技術科 | | 準備 | | | | | 実施 | | | | | |
| 3年生 課題研究 | インテリア科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 機械科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 工業化学科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 電気科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| | 情報技術科 | | 準備 | | | | | | 実施 | | | | |
| 評価アンケート | | | 準備 | | | | | 実施 | | 実施 | | 実施 | |
| 企業実習 | | | 準備 | | | | | | | 実施 | | | |
| 高大連携・高大接続 | | | 検討 | | | | | | | | | | |
| 産業講話・企業視察 | | | 準備 | | 産業講話 実施 | 準備 | | 産業講話 実施 | 準備 | 産業講話 実施 | 企業視察 実施 | | |
| 研究成果中間発表会 | | | | | | | | | 準備 | | 実施 | | |

10 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

11 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・ 無

※有の場合、別添3に詳細を記載すること。

12 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者 ・ 免税事業者 (□で囲むこと)